

SSH 講座「気付く・探る・考える」

9月27日(火)に2年生全員を対象として体育館でSSH講座「気付く・探る・考える」を実施しました。千葉県立農業大学校准教授の清水敏夫先生に「有害生物の防除技術開発による環境保全型農業への取組み」というテーマで講演していただきました(写真①②)。講演内容は

- (1) 千葉県立農業大学校で販売している飛ばないテントウムシによる防除技術について
- (2) 絶滅危惧生物アズマヒキガエルを活用した害虫防除技術について
- (3) 7月6日に特許を出願したジャンボタニシトラップの開発について
- (4) (1)～(3)の技術開発によって生まれた「テントウムシが育んだいちごジャム」、「カエルが育んだおいしいニンジン」、「トウキョウサンショウウオ米」などのブランド商品開発の意義について

でした。研究のテーマ設定や開発理念、実験・考察の仕方、問題解決や実用化に向けた研究の道筋など、興味深い内容ばかりで、本校生徒の課題研究活動に生かせるものがたくさんありました。

伊豆大島徹底 Fieldwork

8月24日(水)～8月26日(金)に、生徒4名が伊豆大島でフィールドワークに参加しました。参加生徒はSSHコンソーシアム千葉に参加している4名(理数科2年生1名、理数科3年生3名)です。SSHコンソーシアム千葉とは、佐倉高校を含めた県内SSH校5校と千葉大学の共同研究プログラムのことです。1日目は2コースに分かれ、生物コースは樹海の散策や火山による植生の破壊からの回復過程の調査を行い、地学コースは山を登りながら溶岩や火口の観察を行いました(写真③～⑥)。2日目は1日目のコースを交換して実習を行い、夜は調査の結果を班ごとにまとめ、発表会を行いました。1、2日目はよく晴れていたため、山からの景色もよく見え、火口から流れ出た溶岩の分布も観察できました。3日目は火山博物館を見学し、帰りの港へ向かうバスの中から地層切断面の観察をしました(写真⑦)。この3日間で自然観察のスキルを身につけることができました。



↑写真① ↓写真②



↑写真③ ↓写真④



↑写真⑦



↑写真⑤



↑写真⑥